

目次

目次	1
1.1 ご使用前の感謝状	3
1.2 本モデルの機能	4
1.3 安全上の情報	4
第2章 本マザーボードの紹介	5
2.1 マザーボードの外見は？	5
2.2 仕様	6
2.3 構成図	7
第3章 ハードウェア・インストール	8
3.1 クイック・インストールの手順	8
3.2 インストールのために知っておくべきこと	9
CPUをインストールする	9
CPUファンをインストールする	10
CPUとシステムファンを接続する	11
メモリーモジュールをインストールする	12
デュアルチャネルのパフォーマンスを最大にする	13
IDEとフロッピーケーブルを接続する	14
前面パネルケーブルを接続する	15
ATX電源ケーブルを接続する	16
3.3 参考としての他のインストール	17
CPU電圧と周波数を設定する	17
シリアルATAを接続する	18
ハードディスクの設定を調整する	19
PCI Express x 16グラフィックススロットを接続する	21
PCI Express x 1スロットを接続する	22
IrDAを接続する	23
ゲームポートを接続する	24

Gigabit LANをサポート	25
USB2.0を接続する	26
スーパー7.1チャンネルオーディオ効果	27
前面オーディオを接続する	28
CD_INを接続する	29
COM2を接続する (i915Gm-PL)	30
Case Openを接続する	31
S/PDIF (Sony/Philips デジタルインタフェース)の接続	32
色分けされた後部パネル (i915Gm-PL)	33
色分けされた後部パネル (i915Pm-PL)	34
LED表示	35
3.4 ジャンパー設定	36
第4章 特別な機能とユーティリティー	37
4.1 他の便利な機能	37
第5章 BIOSを設定する	38
5.1 紹介	38
5.2 Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方	39
5.3 BIOS設定への入り方	39
5.4 Windows環境でのBIOSアップグレード	40
5.5 Vivid BIOSテクノロジー	42
第6章 ドライバーをインストールする	43
6.1 ドライバーをインストールする	44
6.2 ユーティリティーをインストールする	45
7章 トラブルシューティング	46
8章 テクニカルサポート	47
モデル名とBIOSバージョン	48
マザーボードを登録する	48
Technical Support	49



1.1 ご使用前の感謝状

まず初めに、AOpen製品をご購入くださり厚くお礼を申し上げます。本マザーボードは皆様のあらゆるニーズに合うよう、私たちの持つ優秀な設計能力を駆使し、品質のために尽力を傾け設計されました。

このマニュアルでは本マザーボードのインストールの仕方を紹介しています。今後の参考として保管してください。印刷されたマニュアルをなくされた場合は、最新のファイルをダウンロードするために私共のウェブサイト<http://www.aopen.com>にアクセスしてください。

それでは、このユーザーにとって使い勝手のよいマニュアルとAOpenが提供するパワフルな機能のすべてを個人的に経験なさるようお招きいたします。

AdobeとAcrobatのロゴはAdobe Systems Incorporatedの登録商標です。

AMD, AthlonそしてDuronのロゴはAdvanced Micro Devices, Inc.の登録商標です。

Intel, Intel Celeron, Pentium II, IIIそしてPentium 4のロゴはIntel Corporationの登録商標です。

nVidiaのロゴはnVidia Corporationの登録商標です。

Microsoft, Windowsのロゴはアメリカ及び他の国々におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

本マニュアルで言及されている製品のタイトルや商標は解説上の便宜を目的としており、それぞれの企業によって所有されています。

使用上の標準やそれに関連する情報に関わる変更について提供できないことを遺憾に思います。AOpenは本マニュアルの内容について変更や修正を加える権利を留保しています。商品に関わる点も含むいかなる誤記について、AOpenは保証や義務を負うものではありません。

本文書は会社を保護し全ての権利を留保するために著作権法に基づいています。

AOpenからの正式な文書での許可がない限り、どのような状況であれ、本冊子をいかなる種類に複製することも、データベースや媒体に取り込むことも許されていません。

1996-2004 Copyrights, AOpen Ltd. 版權所有。

1.2 本モデルの機能

本マザーボードの便利な情報や知っておくべき特定の状況を把握するために、以下のアイコンがしばしば出てきます：

重要

組み立ての過程で知っておくべき知識や役立つヒントを含んでいます。

警告 / 注意

このマークを見たら注意して下さい。組み立て中によく起きるミスや注意すべき点を強調しています。

ヒント

このヒントはインストールをスムーズに行うために役に立つ情報を教えてくれます。

1.3 安全上の情報

1

コンポーネントを扱う前に、リストストラップを着用しユニットの金属部分に触れてください。別の方法としては、アースされた物体に触れるか、その金属面に触れてください。

2

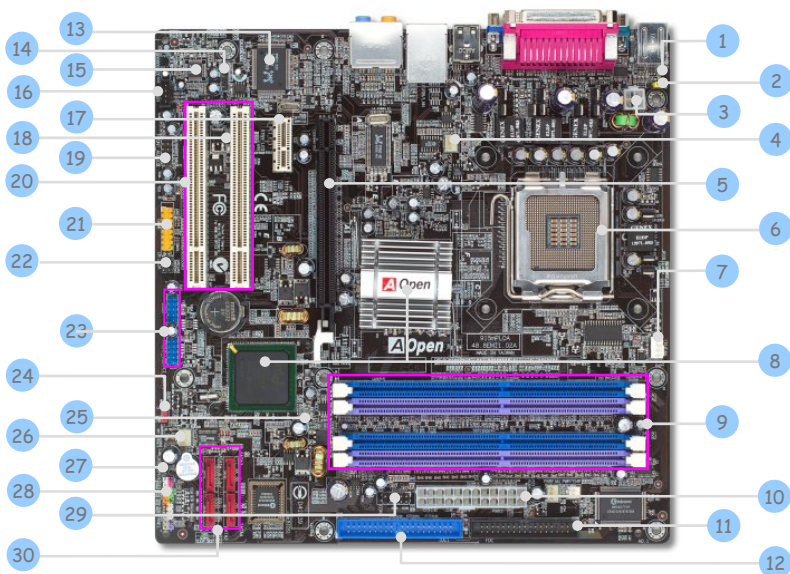
ジャンパー設定の前には常に電源を抜いてください。

3

マザーボード上のコンポーネントをインストールしたり外したりする前には、最初に電源を外し、マザーボードや他のコンポーネントにダメージを与えないようにして下さい。

第2章 本マザーボードの紹介

2.1 マザーボードの外見は？



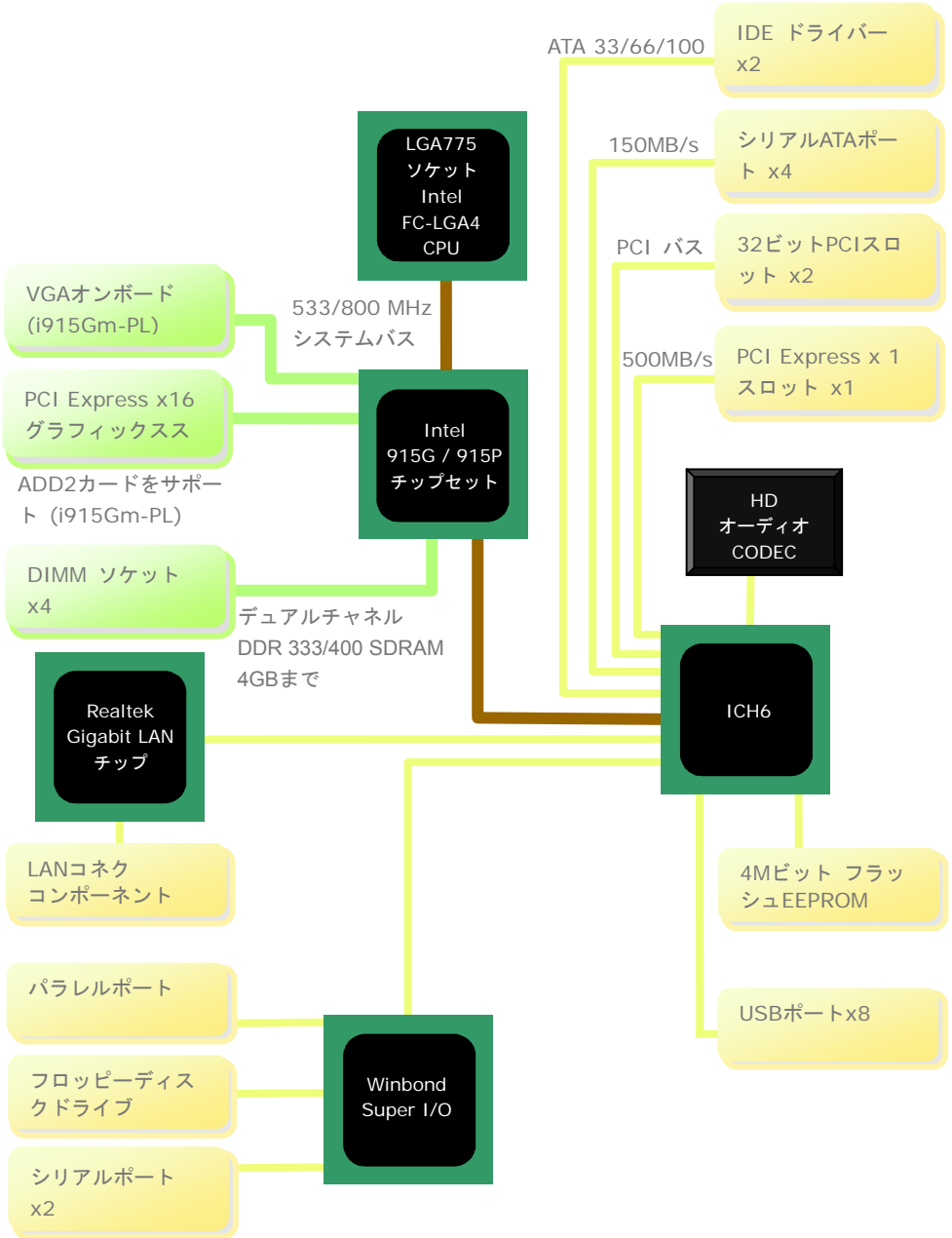
- | | |
|------------------------------------------------|------------------------------------|
| 1. リセット可能フューズ | 16. CD-INコネクタ |
| 2. JP28 PS2 キーボード/マウス起動ジャンパー | 17. PCI Express x 1スロット |
| 3. 4-pin 12V ATX電源コネクタ | 18. スタンバイLED |
| 4. SYSFAN1コネクタ | 19. フロントオーディオコネクタ |
| 5. PCI Express x 16グラフィックススロット | 20. 32-bit PCI Expansion Slots x 2 |
| 6. Intel FC-LGA4 CPU をサポートする
LGA775 CPUソケット | 21. ゲームポートコネクタ |
| 7. CPUFANコネクタ | 22. IrDAコネクタ |
| 8. Intel 915G/ICH6 | 23. USB2.0コネクタ |
| 8. Intel 915P/ICH6 | 24. JP14 CMOSデータクリアジャンパー |
| 9. 184ピンDIMMs x 4 | 25. BOOT LED |
| 10. ATX電源コネクタ | 26. SYSFAN2コネクタ |
| 11. FDDコネクタ | 27. Case Openコネクタ |
| 12. IDEコネクタ | 28. 前面パネルコネクタ |
| 13. Realtek Gigabit LAN Chip | 29. COM2コネクタ |
| 14. S/PDIFコネクタ | 30. シリアルATAポート x 4 |
| 15. オンボードHDオーディオCodec | |

2.2 仕様

お手持ちのマザーボードの主要な機能です。

モデル	i915Gm-PL	i915Pm-PL
CPU	Intel FC-LGA4 CPU Socket T 800MHz	Intel FC-LGA4 CPU Socket T 800MHz
チップセット	Intel 915G/ICH6	Intel 915P/ICH6
メインメモリー	デュアルチャネルモードDDR DDR 333/400 DDR DIMM x 4 DIMMタイプ : 128/256/512MB & 1GB 最大メモリー : 4GB	デュアルチャネルモード DDR DDR 333/400 DDR DIMM x 4 DIMM タイプ : 128/256/512MB & 1GB 最大メモリー: 4GB
グラフィックス	チップセットに一体型のVGAエンジン PCI Express x 16グラフィックス・スロット・ADD2 カードをサポート	PCI Express x 16グラフィックス・スロット
IDE	一体型のATA100とシリアルATAコントローラー 最大ディスク : 144,000,000GB [48 bits LBA Spec.による]	一体型のATA100とシリアルATAコントローラー 最大ディスク : 144,000,000GB [48 bits LBA Spec.による]
LAN	Realtek Gigabit PCI LAN Chip	Realtek Gigabit PCI LAN Chip
サウンド	オンボードHD オーディオCodec Dolby Digital System, 7.1チャンネル以上をサポート	オンボードHD オーディオCodec Dolby Digital System, 7.1チャンネル以上をサポート
USB	チップセットに一体型, USB 2.0 x 8	チップセットに一体型, USB 2.0 x 8
スロット	PCI Express x 1 スロットx 1 PCI Express x 16 グラフィックス・スロットx 1 PCI スロット x 2	PCI Express x 1 スロットx 1 PCI Express x 16 グラフィックス・スロットx 1 PCI スロット x 2
後部パネル I/O	PS/2キーボードx 1, PS/2マウスx 1 USBポートx 4, LANポートx 1, VGAポートx 1, COMポートx 1, プリンターポートx 1 スピーカー出力x 1, ライン入力x 1, マイク入力x 1 側面SUR x 1, 後部SUR x 1 センター/サブウーハーx 1	PS/2キーボードx 1, PS/2マウスx 1 USBポートx 4, LANポートx 1, VGAポートx 1, COMポートx 2, プリンターポートx 1 スピーカー出力x 1, ライン入力x 1, マイク入力x 1 側面SUR x 1, 後部SUR x 1 センター/サブウーハーx 1
オンボードコネクタ	フロッピードライブコネクタx 1 IDEチャンネル : ATA100 x 1 シリアルATAチャンネル x 4 前面パネル x 1 前面オーディオ x 1 CPUファン x 1, システムファン x 1 ケースファン x 1 電源ファン x 1 電源温度コネクタ x 1 Case Openコネクタ x 1 S/PDIF x 1, CD入力 x 1, IrDA x 1 COM2 x 1 USB2.0コネクタ x 2	フロッピードライブコネクタx 1 IDEチャンネル : ATA100 x 1 シリアルATAチャンネル x 4 前面パネル x 1 前面オーディオ x 1 CPUファン x 1, システムファン x 1 ケースファン x 1 電源ファン x 1 電源温度コネクタ x 1 Case Openコネクタ x 1 S/PDIF x 1, CD入力 x 1, IrDA x 1 USB2.0コネクタ x 2
BIOS	Award PnP 4MbフラッシュROM BIOS	Award PnP 4MbフラッシュROM BIOS
ボードサイズ	244 mm x 244 mm	244 mm x 244 mm

2.3 構成図



第3章 ハードウェア・インストール

3.1 クイック・インストールの手順



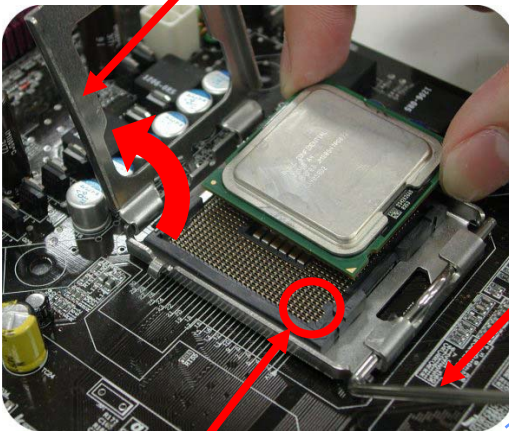
3.2 インストールのために知っておくべきこと

CPUをインストールする

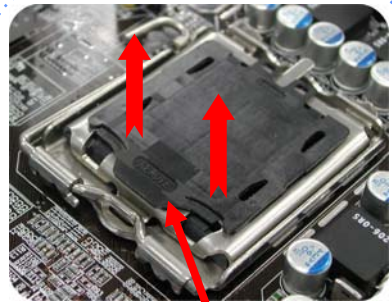
このソケットはIntel が開発した最新のCPU パッケージであるFC-LGA4 CPUをサポートしています。他の形状のCPUパッケージは納まりません。

1. CPUソケットレバーを引き、プレートを上げます。
2. CPUソケットプレートからプラスチックキャップを外す。
3. ソケットのピン1を確かめ、CPU上部にある金色の矢印を探す。ピン1と金色の矢印を合わせる。CPUをソケットに差し込む。
4. CPUソケットプレートとレバーを押し込み、CPUのインストールは完了。

CPUソケットプレート

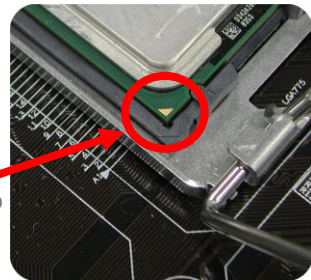


ソケットピン1



プラスチックキャップ

CPUソケット



金色の
矢印



警告： CPUソケットのピン1とCPUの金色の矢印が合わない場合は、CPUが破損するかもしれません。CPUをインストールするときはCPUソケットピンに触れないで下さい。



重要： Prescott CPUから発生する過熱を避けるため、thermal paste（サーマルペースト）を適切に使用するようIntelから強く勧められています。

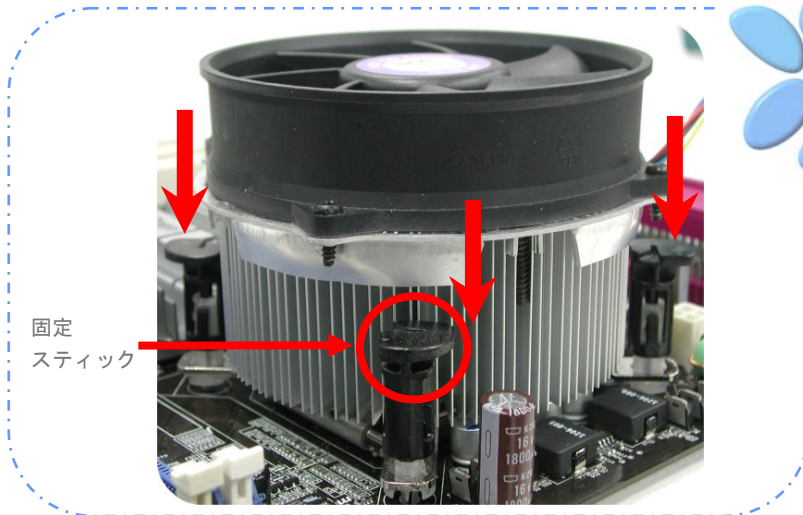


CPUファンをインストールする

1. CPUソケット上の4つの取り付け穴に、正確に4本のスティックでCPUファンを優しく押し込んでください。



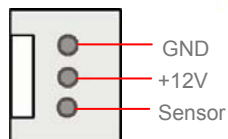
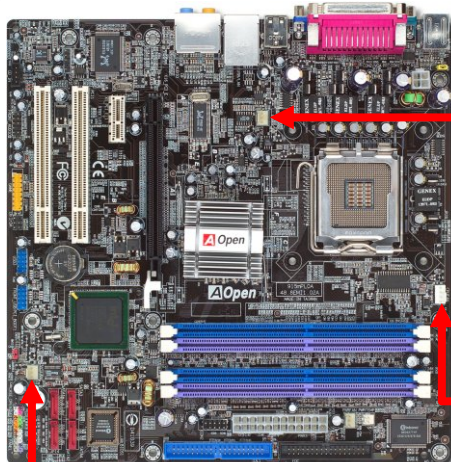
2. 一つずつ穴に4つの固定スティックを押し込んでください。スティックが穴にしっかりと固定されていることを確認してください。



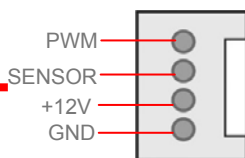
重要 : 上の写真のものは購入されたものと形状が異なるかもしれません。

CPUとシステムファンを接続する

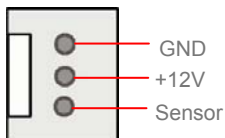
CPUファンケーブルを4ピンCPUFANコネクタに接続します。もしケースにファンがあれば、SYSFAN1かSYSFAN2コネクタに接続できます。



SYSFAN1コネクタ



CPUFANコネクタ



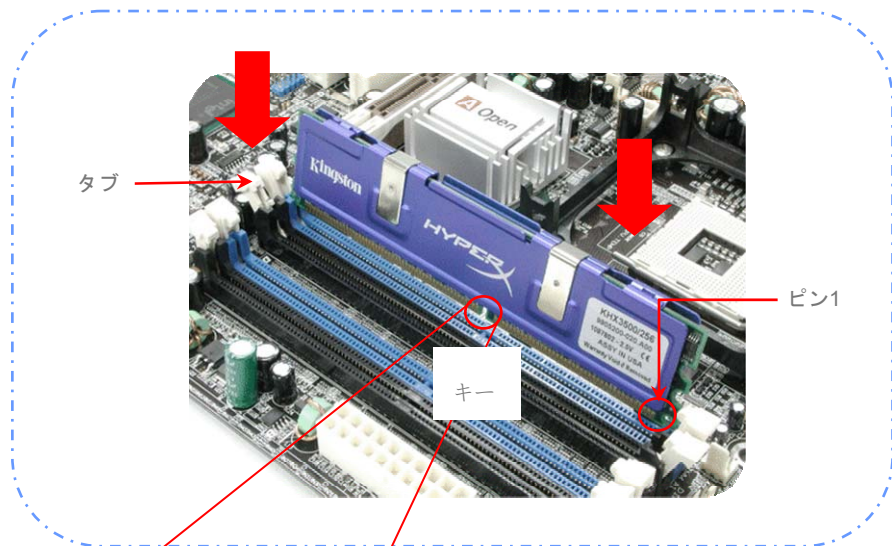
SYSFAN2コネクタ

重要: CPUファンの中にはセンサーピンのないものがあるので、その場合はファンのモニターをサポートできません。



メモリーモジュールをインストールする

DIMMスロットは分かりやすいようにネイビーブルーに設計されています。モジュールを両手でまっすぐに DIMMスロットに挿入し、DIMMモジュールがしっかりと固定されるまで押し込んでください。



重要： DIMMスロットのタブはDIMMがスロットの底部に接触したときに、DIMMを固定するために持ち上がります。

デュアルチャネルのパフォーマンスを最大にする

デュアルチャネルの最高のパフォーマンスを得るために、DIMMの構成は以下の条件を満たしていなければなりません。

それぞれのチャネルに適合するDIMM構成

- 同一密度 (128MB~1GB)

同一密度のメモリーモジュールをチャネル1 (DIMM A1& DIMM A2)とチャネル2に差し込む限り、デュアルチャネルモードが有効になります。

DIMM A1 + DIMM A2 = DIMM B1 + DIMM B2

例：1GBメモリーモジュールをDIMM A1とDIMM A2に挿入すると、デュアルチャネルモードはDIMM B1 + DIMM B2 = 1GBのとき、有効になります。

- 同一DRAMバス幅 (x8またはx16)
- シングルサイドのモジュールまたはダブルサイドのモジュールで統一

※全く同一型番のモジュールを使用することを強く奨励致します。



重要：異なるチップのメモリーモジュールを使用するとシステム不安定の原因になります。

デュアルチャネルモードが上手く有効になると、POST画面の間に、“Dual Channel Mode Enabled”が画面に表示されます。

```
Phoenix - AwardBIOS v6.00PG, An Energy Star Ally
Copyright (C) 2003, Phoenix Technologies, LTD

Feb.02.2004 AOpen Inc.

Main Processor : Intel Pentium(R) 4 2.80GHz(200x14.0)
Memory Testing : 1048576K OK
CPU Brand Name : Intel(R) Pentium(R) 4 CPU 2.80GHz

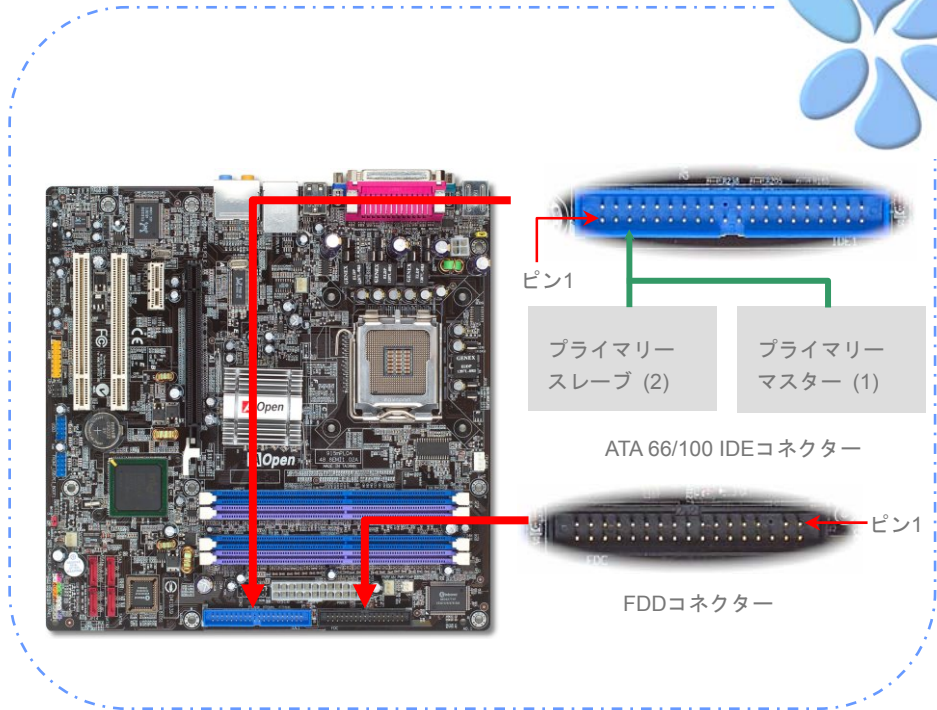
Hyper-Threading Technology Enabled
Dual Channel Mode Enabled

CPU 200MHz / 200MHz Default / Setting
DRAM 400MHz / 400MHz 1.525V / 1.525V
AGP 66.67MHz / 66.67MHz AUTO / AUTO
PCI 33.33MHz / 33.33MHz 1.50 V / 1.50 V
3.30 V / 3.30 V
IDE Channel 0 Master : WDC WD300AB-00CDB0 22.04A22
IDE Channel 0 Slave : None
IDE Channel 1 Master : None
IDE Channel 1 Slave : None
```

Press DEL to enter SETUP
02/02/2004-Springdale-G-6A79AAB9C-00

IDEとフロッピーケーブルを接続する

34ピンのフロッピーケーブルと40ピンか80ワイヤーIDEケーブルをフロッピーコネクタとIDEコネクタに接続します。ピン1の向きに注意してください。向きを間違えるとシステム損傷の原因になります。



前面パネルケーブルを接続する

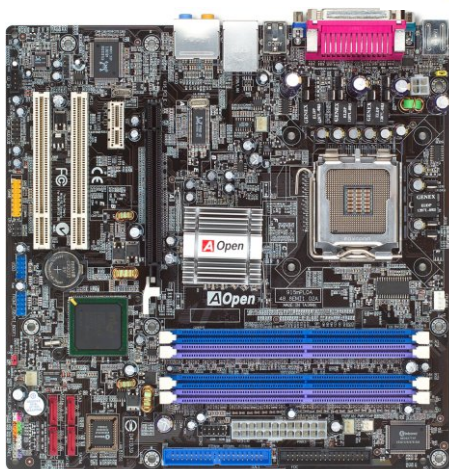
電源LED、スピーカー、リセットスイッチコネクタを対応するピンに取り付けます。BIOS設定の“サスペンドモード”の項目を有効にすると、システムが“サスペンドモード”になっている間、ACPI & Power LEDが点滅します。

ATXケースの電源スイッチケーブルを確認してください。ケースの前面パネルの2ピンのメスのコネクタです。このコネクタをSPWRと記されたソフトパワースイッチコネクタに接続します。



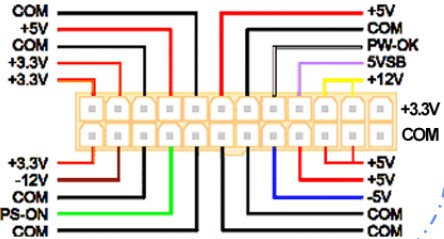
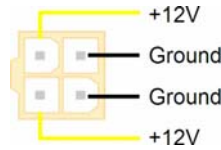
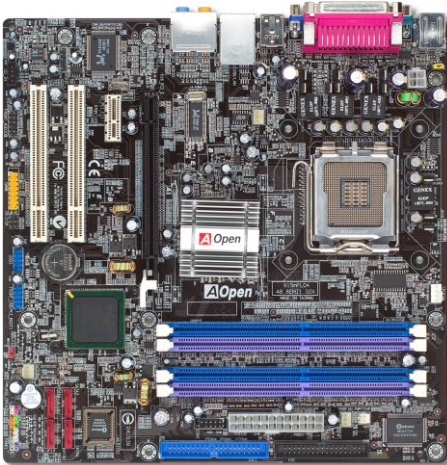
	1			
NC		Power Switch		
NC		GND		
+5V		Power LED-		
HDD LED		GND		
HDD LED		Power LED+		
+5V		NC		
+5V		GND		
GND		GND		
NC		RESET		
SPEAKER		GND		

前面パネルコネクタ

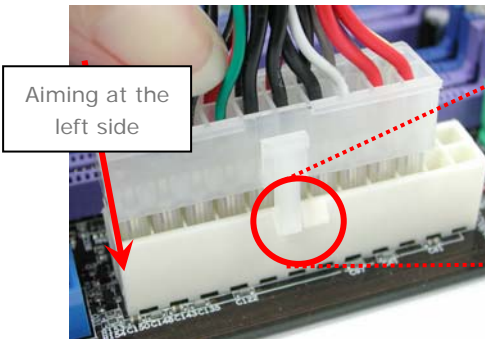


ATX電源ケーブルを接続する

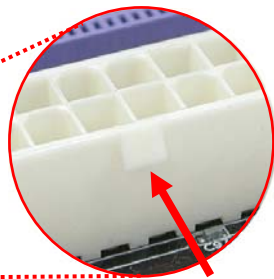
本マザーボードには下に示されているように、24ピンのATX 電源コネクタと4ピンの12V ATX電源コネクタがあります。正しい向きで差し込んでください。24ピンコネクタを差し込む前に4ピンコネクタを差し込んでおかれることを強くお勧めします。



Note: Please aim the power plug at the **left side** of the 24-pin ATX power connector when the foolproof design faces you as shown.



Aiming at the left side



Foolproof

3.3 参考としての他のインストール

CPU電圧と周波数を設定する

CPUコア電圧の設定

当マザーボードは電圧ID (VID)機能で電源オン時にCPU電圧の自動検出が可能です。

CPUクロックの設定

当マザーボードはCPUジャンパレス設計で、CPUクロック設定はBIOSの1MHzステップCPUオーバークロック機能から行います。CPUコアクロック = CPU FSBクロック x CPU レシオ。ただし、現在市場に流通するCPUは"倍率固定"、すなわちユーザーによるCPUレシオは調節不可能で、オーバークロックにはCPU FSBクロックのみが調節可能です。

(オーバークロックは自己責任の元行なって頂きますようにお願いします。)

BIOS設定 > 周波数 / 電圧制御 > CPUスピード設定

CPU比率	8x, 10x... 24x, 25x, 26x, 27x, 28x
CPU FSB (手動での調整)	FSB = 100MHz-400MHz by 1MHz Stepping CPUオーバークロック

プロセッサ番号	プロセッサ周波数	FSB	CPU比率	キャッシュ
5シリーズ				
570	3.80G	800MHZ	19x	1MB L2
560	3.60G	800MHZ	18x	1MB L2
550	3.40G	800MHZ	17x	1MB L2
540	3.20G	800MHZ	16x	1MB L2
530	3.00G	800MHZ	15x	1MB L2
520	2.80G	800MHZ	14x	1MB L2
3シリーズ				
350	3.20G	533MHZ	24x	256K L2
345	3.06G	533MHZ	23x	256K L2
340	2.93G	533MHZ	22x	256K L2
335	2.80G	533MHZ	21x	256K L2

重要： CPUのスピードは急速に変化するため、このインストールガイドを手にする時点では最速のCPUかもしれません。この表は参考のためのものです。詳細な情報については販売店と連絡を取ってください。



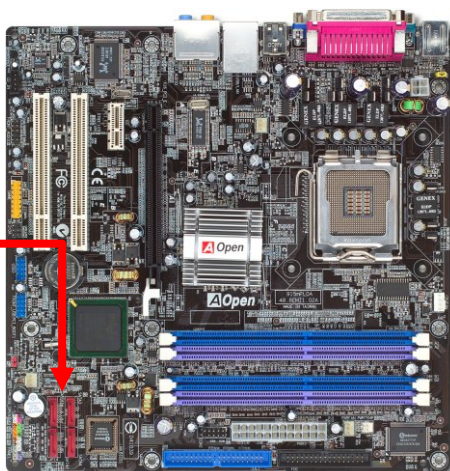
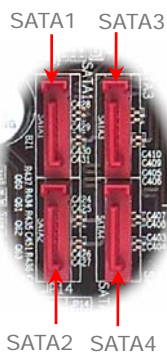
警告： Intel 915G / 915P chipsetは最大800MHz (200MHz*4)のシステムバスまでサポートします。クロック設定を高くするとシステムに深刻な損傷を起こす可能性があります。



重要： CPUの中には、センサーピンのないものがあるので、その場合はファンのモニターをサポートできません。

シリアルATAを接続する

シリアルATAディスクを接続するために、7ピンのシリアルATAケーブルが必要です。シリアルATAケーブルの両端をマザーボード上のシリアルATAヘッダーとディスクに接続します。他の従来のディスクのように、電源ケーブルも接続します。ジャンパー不要であることに注意してください。マスターがスレーブディスクを定義するためにジャンパーを設定する必要はありません。シリアルATAハードディスクをシリアルATAポートにインストールするときは、自動的にPort SATA1に接続する方が最初に起動するブートデバイスになります。ホットプラグ機能をサポートしていないことに注意してください。



ハードディスクの設定を調整する

オリジナルの平行IDE一式を除いて、本マザーボードは最新のシリアルATAハードディスクをサポートしています。インストールをした後で、最新のインストールしたばかりのシリアルATAハードディスクがOS上に見つからないなら、BIOS設定に問題があるかもしれません。正しく機能するようにBIOS設定を調整できます。

ハードディスクを正しくインストールした後で、調整用のBIOS設定画面に進んでください。好みのモードを選択するために“Integrated Peripherals → OnChip IDE Device → On-Chip Serial ATA”の順に押してください。オリジナル設定の変更を希望されないのであれば、デフォルトは自動になっています。

The screenshot shows the Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility interface. The main menu is as follows:

▶ Standard CMOS Features	Load Setup Defaults
▶ Advanced BIOS Features	Load Turbo Defaults
▶ Advanced Chipset Features	Set Password
▶ Integrated Peripherals	Save & Exit Setup
▶ Po	

The **Integrated Peripherals** menu is expanded to show:

▶ OnChip IDE Device	Press Enter	Item Help
▶ SuperIO Device	Press Enter	Menu Level ▶
▶ USB Controller	Enabled	
▶ USB 2.0 Controller	Enabled	
▶ USB Keyboard Support	Auto	
▶ Onboard Audio Codec	Enabled	
▶ Onboard LAN Control	Enabled	

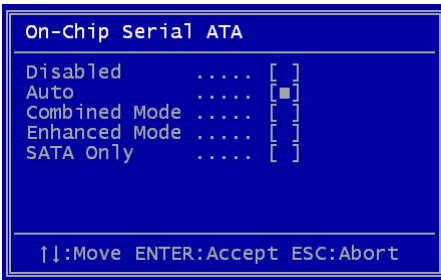
The **OnChip IDE Device** menu is further expanded to show:

*** On-Chip Serial ATA Setting ***		Item Help
On-Chip Serial ATA	Auto	Menu Level ▶
x PATA IDE Mode	Primary	
SATA Port	SATA3,SATA4 Secondary	
*** On-Chip PATA Setting ***		
On-Chip Primary PCI IDE	Enabled	
On-Chip Secondary PCI IDE	Enabled	

The **Item Help** for the On-Chip Serial ATA setting is:

[Disabled]: Disabled SATA Controller.
[Auto]: Auto arrange by BIOS.
[Combined Mode]: PATA and SATA are combined. Max.of 2 IDE drives in each channel.
[Enhanced Mode]: Enable both SATA and PATA. Max.of 6 IDE drives are supported.
[SATA Only]: SATA is operating in legacy mode.

Navigation keys at the bottom: ↑↓←→: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F2:Item Help F5:Previous Values F6:Setup Defaults F7:turbo Defaults



デフォルト設定の変更を望まれるなら、選択リストのためにEnterを押します：

Disabled (無効)：従来のIDEハードディスクだけがシステムにインストールされているならこの項目を選択できます。この項目を無効にすると、POSTの最中にシリアルATAハードディスクの検知をキャンセルします。論理的にはブートの時間がわずかに早まりますが、後になってシリアルATAハードディスクを使用する

ときにはこの設定を再調整することを忘れないで下さい。

Auto (自動)：これが本マザーボードの出荷時のデフォルト設定です。基本的には、システムが正しく機能していれば、変更する必要はありません。システムはプライマリーとしてPATA (IDE)を自動的に認識します。

Combined Mode (統合モード)：従来のIDEハードディスクとシリアルATAハードディスクを同時にインストールするには、このモードを選択します。このモードでは、最初にブートするデバイスとしてIDEハードディスクかシリアルATAハードディスクをランダムに選択できます。しかしマッピングでは、IDEがATAと共に存在することに注意してください。つまりシリアルチャネルの一つが占有され、シリアルチャネルが一つしか残らなくなるという意味です。PATAモードがプライマリーとして設定されると、SATA3とSATA4はセカンダリーになります。PATAモードがセカンダリーに設定されるとSATA1とSATA2がプライマリーになります。

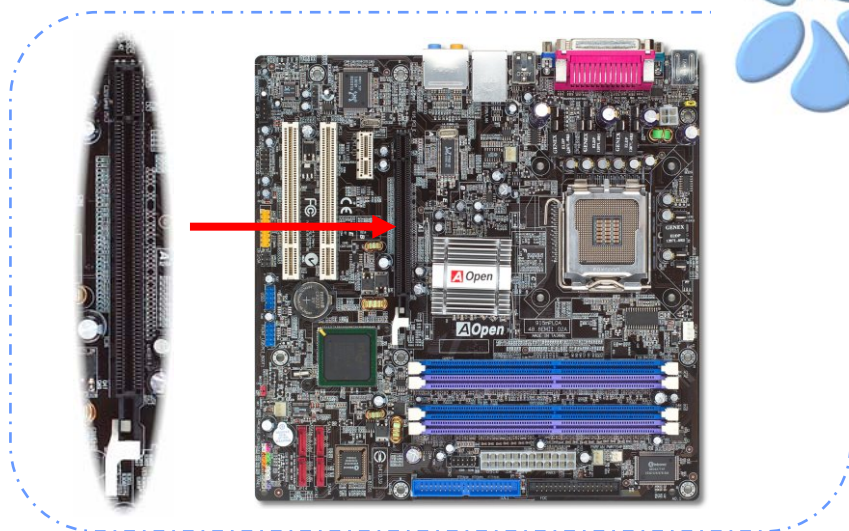
Enhanced Mode (拡張モード)：最新のOS(例：Windows XP, Windows.NET Server)をお使いであれば、Enhanced Modeを選択されるよう強くお勧めします。このモードではシステムは6つのデバイス全て(従来型IDE x 2, シリアルATA x 4)をしっかり認識し、正しく機能します。しかし、PATAモードはこのモードではプライマリーに設定されることに注意してください。

重要： Windows2000でのEnhanced Modeのご使用は推奨いたしません。

SATA Only: シリアルATAハードディスクをインストールするときのみ、このモードを選択できます。

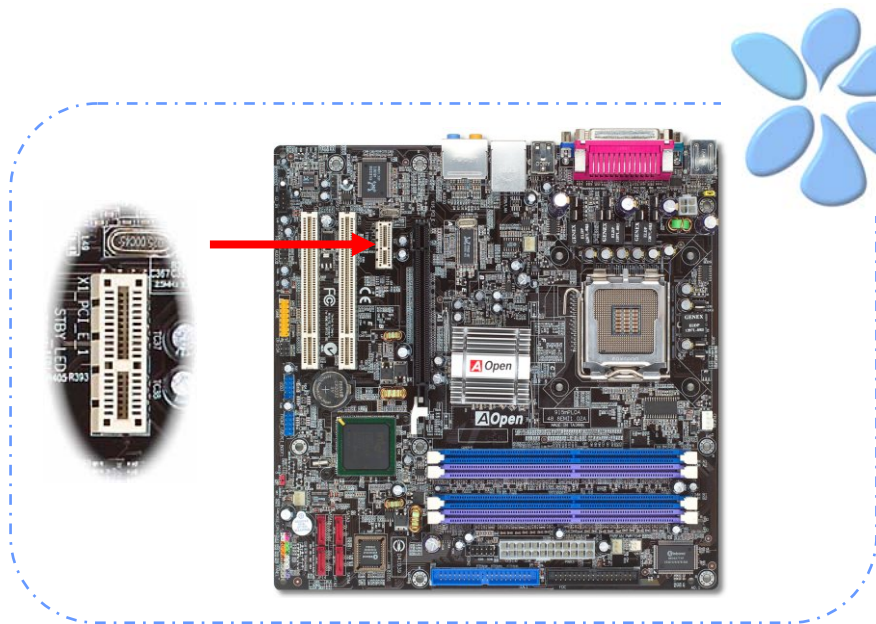
PCI Express x 16グラフィックススロットを接続する

i915Gm-PL / i915Pm-PL はPCI Express x 16グラフィックススロットを提供します。これはマザーボード上に最新のPCI Express x 16仕様を持つ黒色のスロットです。PCI Express x 16は高品質の3Dグラフィックスをターゲットにしたバス・インターフェイスです。従来は、AGPが8X AGP用の66MHzクロックの最盛期と後退期の両方で使用され、データ転送率は2.1GB/sに達しました。現在PCI Express x 16はさらに早いデータ転送率へと進歩し、8.0GB/s (250MB/s x 16 x 2、各向きに4GB/s) までにアップグレードされました。i915Gm-PL用として、PCI Express x 16スロットは自動的にPCI Express x 16グラフィックスや、多重化Intel DVO出力を認識します。これはPCI Express x 16グラフィックスやADD2 (AGP Digital Display 2)カードなど、どのカードが挿入されているかによります。このスロットに装備されているADD2カードと合わせて、多重化Intel DVO出力はデジタルディスプレイやTV-OUT機能のために高速なデジタル接続を提供します。



PCI Express x 1 スロットを接続する

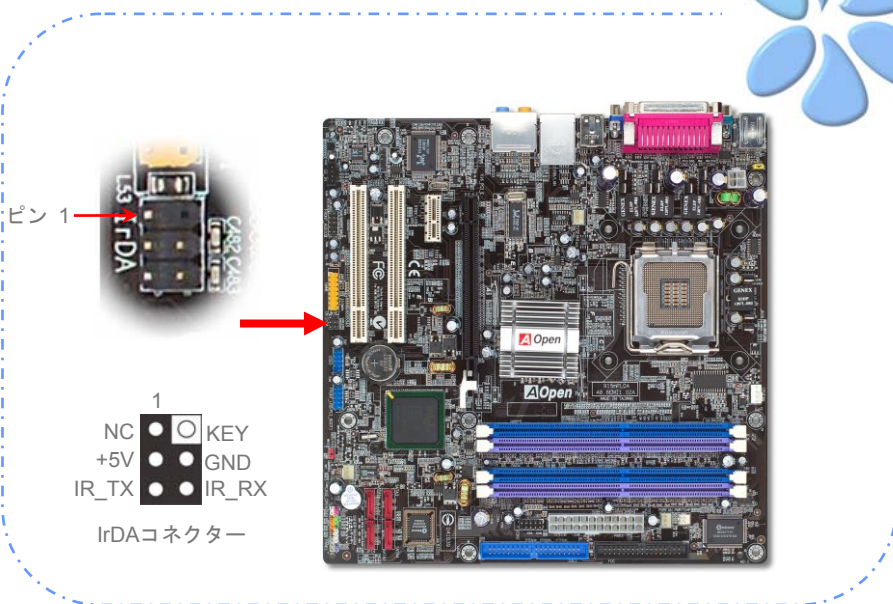
本マザーボードはPCI Express x 1 スロットを一つ提供しています。これはPCI Express x 16と従来のPCIスロットの間に位置します。現在と明日のプロセッサと同調するために、PCI Express x 1はより広域なI/Oバンド幅を提供します。転送データ率は平行して500MB/s (各向きに250MB/s)を達成しました。これは従来のPCIのデータ転送率のほぼ4倍に迫っています。好みに応じてどのようなPCI Express x 1 デバイスでもスロットにインストールできます。



IrDAを接続する

IrDAコネクタはワイヤレス赤外線モジュールをサポートするように設定できます。このモジュールとLaplink、Windows Direct Cable Connectionのようなアプリケーションを使って、ユーザーはファイルをラップトップ、ノートパソコン、PDA装置やプリンターに転送できます。このコネクタは HPSIR (115.2Kbps, 2 meters)とASK-IR (56Kbps)の両方をサポートしています。

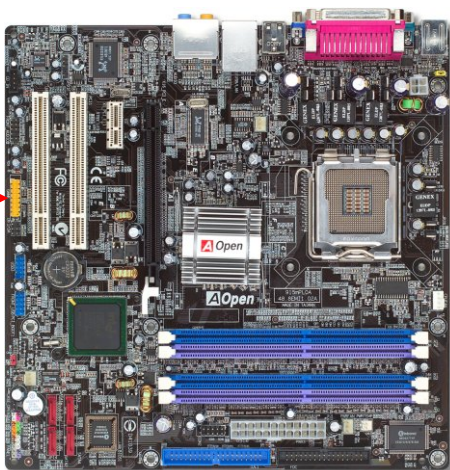
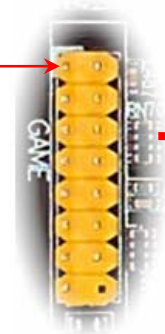
赤外線モジュールをIrDAコネクタにインストールし、BIOS設定のUARモードから赤外線機能を有効にすると、この機能を使用できます。IrDAモジュールを差し込むときは、正しい向きに差し込んでいることを確認して下さい。



ゲームポートを接続する

本マザーボードにはゲームポート(Joystick-Midi)が付いており、どのMIDI装置やジョイスティックにも接続できます。この機能を使用するためには、ジョイスティックモジュールが必要で、マザーボードのこのポートにゲームポートを接続します。

ピン1



	1	2	
+5V	●	●	+5V
JAB1	●	●	JBB1
JACX	●	●	JBCX
GND	●	●	MIDI_TXD
GND	●	●	JBCY
JACY	●	●	JBB2
JAB2	●	●	MIDI_RXD
+5V	●	○	KEY
	15	16	

ゲームポートコネクタ

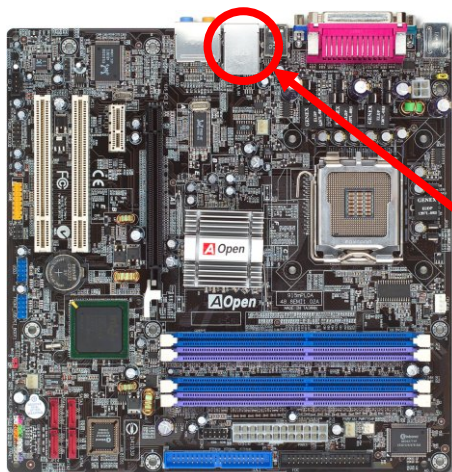


(オプション用ユーザーアップグレード)



Gigabit LANをサポート

ボード上のギガサイズの強度のLANコントローラーについては、本マザーボードはオフィスと家庭の用途のために10/100/1000Mbps Ethernetを提供しています。Ethernet RJ45コネクタはUSBコネクタの上部に位置しています。右側のLEDはリンクモードを示していて、ネットワークとリンクされていると黄色に点灯します。左側のLEDは転送モードを示していて、データが100Mbps (10Mbpsだと点灯しない)で転送されていると緑に点灯します。しかしギガビットモードで転送されているとオレンジに点灯します。この機能を有効、無効にするにはBIOS を通して調整してください。LANの起動機能を有効にするには、BIOSの“Power Management Setup”セクションで“Wake on PCI Card”を有効にセットしなければなりません。



速度 LED (左)
緑 100Mbps
オレンジ ギガビットモード

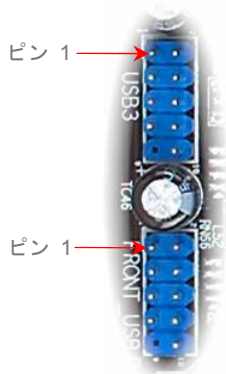


ACT LED (右)
黄色

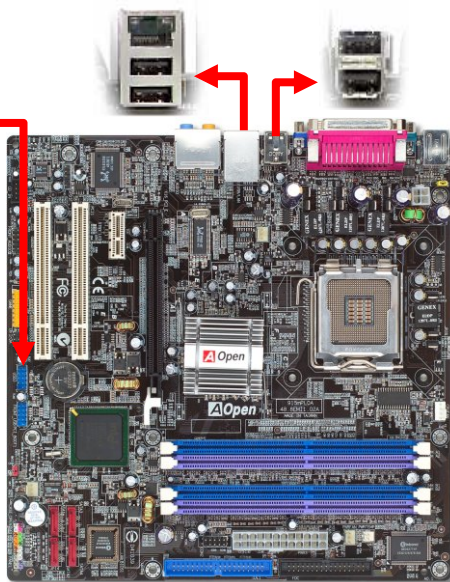


USB2.0を接続する

本マザーボードはマウス、キーボード、モデム、プリンターなどのUSB装置に接続できるよう8つのUSB 2.0ポートを備えています。後部パネルにはポートが4つあります。前面USBコネクタをUSB モジュールやケースの前面パネルに接続するために適切なケーブルを使えます。

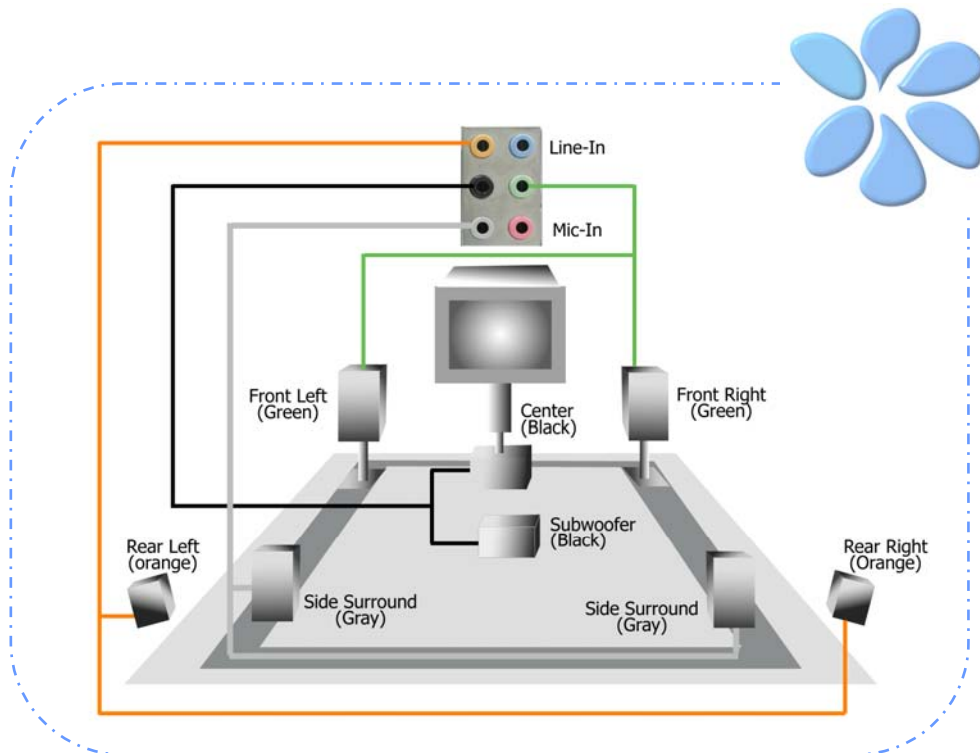


	1	2					
+5V	●	●	+5V	●	●	SBD7-	●
SBD6-	●	●	SBD7+	●	●	GND	●
SBD6+	●	●	GND	●	●	KEY	○
GND	●	●	NC	●	●		
KEY	○	●					
	9	10					
USB Connector							



スーパー7.1チャンネルオーディオ効果

本マザーボードにはALC880 CODECが付いており、音響効果において高品質な最新の7.1チャンネルをサポートしています。これによって全く新しいオーディオ体験ができるでしょう。本マザーボードは以下に示される7.1チャンネルを提供しています。図は7.1チャンネルサウンドトラックの全てのスピーカーの位置を示しています。前面スピーカーのプラグを緑の“Speaker out (スピーカー出力)”ポートに、後部のサラウンドスピーカーをオレンジのポートに、側面のサラウンドスピーカーを灰色のポートに、中央とサブウーハースピーカーの両方を後部パネルの黒色のポートに接続してください。

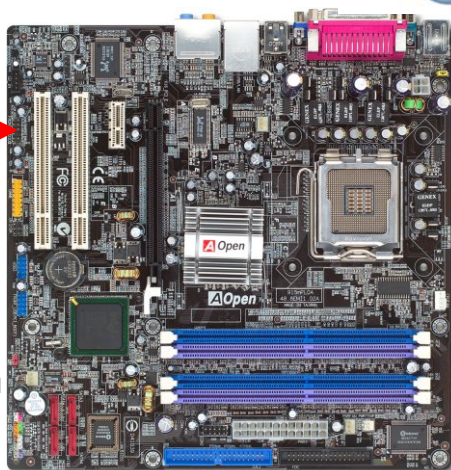


前面オーディオを接続する

もしケースの前面パネルにオーディオポートが付いていれば、このコネクタを通してオンボードオーディオを前面パネルに接続できます。フロントオーディオポートが正しく動作するように、ケースのフロントオーディオパネルには高品位オーディオジャック装備のものをご使用ください。フロントオーディオパネルが高品位オーディオジャック対応でない場合は、メンバーの後部パネルのマイク端子に接続することを強くお勧めします。



ピン 1

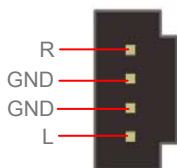
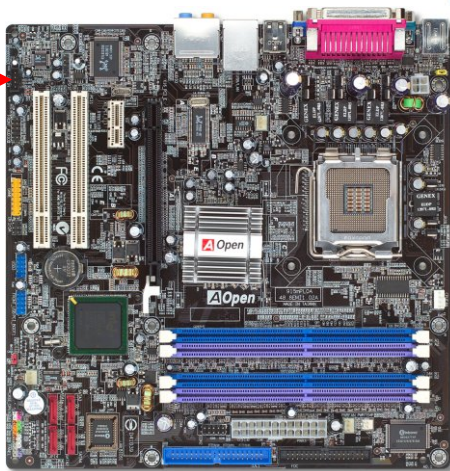


1	●	GND
PORT1L	●	PRESENCE#
PORT1R	●	SENSE1_RETURN
PORT2R	●	KEY
SENSE_SEND	○	SENSE2_RETURN
PORT2L	●	

前面オーディオコネクタ

CD_INを接続する

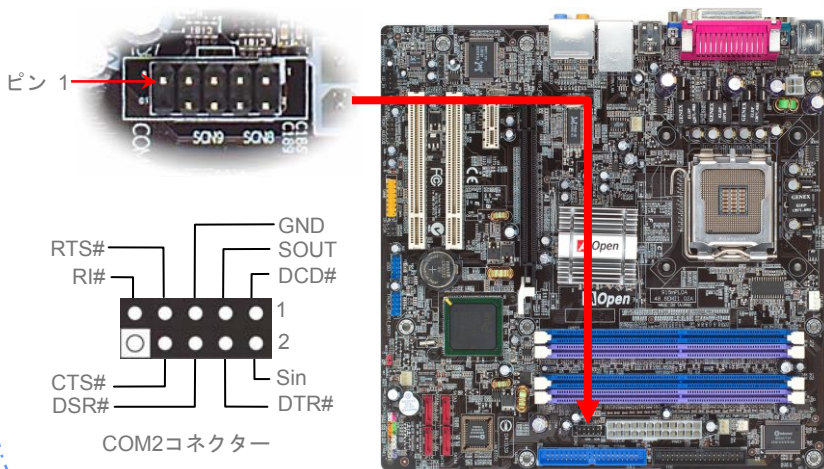
このコネクタはオンボードサウンドのために、CDROMやDVDドライブからCDオーディオケーブルに接続するよう設計されています。



CD-INコネクタ

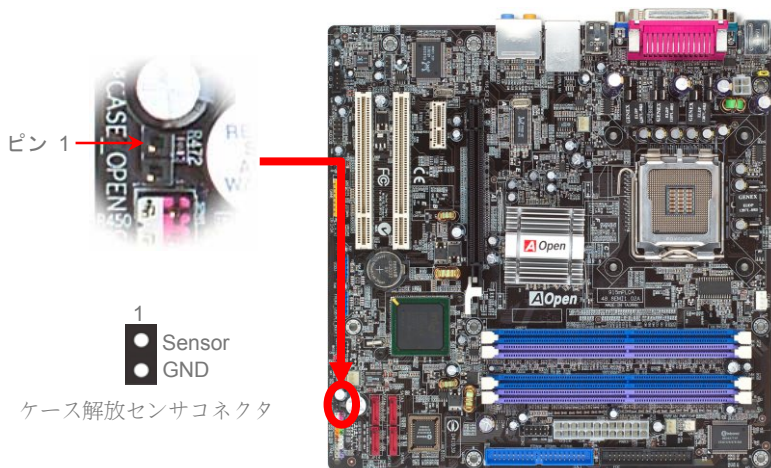
COM2を接続する (i915Gm-PL)

本マザーボードはシリアルポートを2つ提供しています。一つは後部パネルコネクタで、他方は左側のATX電源コネクタです。正しいケーブルを使ってケースの後部パネルと接続できます。



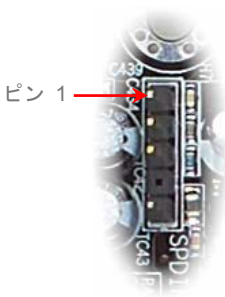
Case Openを接続する

“CASE OPEN”ヘッダーはケース開放センサ機能を提供します。この機能を利用するにはシステムBIOSで設定をオンにし、このヘッダーをケース内に設置したセンサに接続する必要があります。この場合、センサが光やケース開放を検知するとシステムはビープ音で知らせます。ただし、この便利な機能は新型のケースを対象としており、センサの購入・設置が必要となる場合がある点にご注意ください。

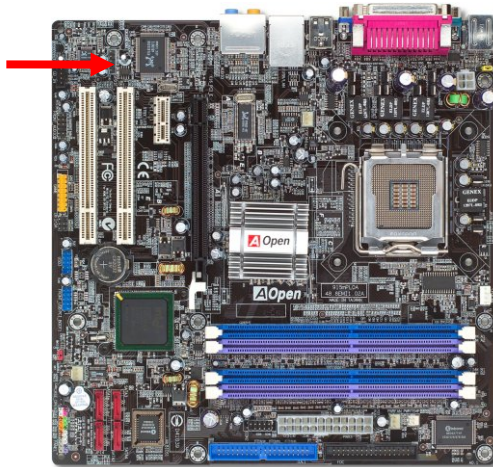


S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインタフェース)の接続

S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインタフェース)は最新のオーディオ転送ファイル形式で、アナログに取って代わるデジタルオーディオを光ファイバー経由で楽しめます。専用オーディオケーブルにより、SPDIFコネクタと別のS/PDIFデジタル出力をサポートするS/PDIFオーディオモジュールを接続します。図示されているように通常S/PDIF出力は2つあり、一方は大部分の消費型オーディオ製品に対応するRCAコネクタ、他方はより高品質のオーディオに対応する光コネクタです。出力と同様、モジュールの入力コネクタにRCA または光信号オーディオ製品を接続して、お持ちのコンピュータからサウンドを出すことも可能です。ただし、当機能の長所を最大限活かすにはSPDIFデジタル入出力をSPDIFデジタル入出力対応スピーカー/アンプ/デコーダに接続する必要があります。

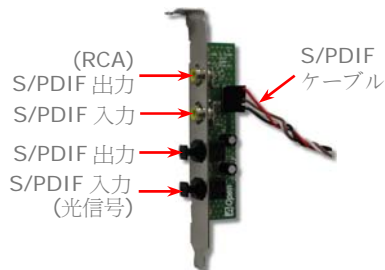


ピン 1



- 5 ● SPDIF IN
- GND
- SPDIF OUT
- KEY
- +5V

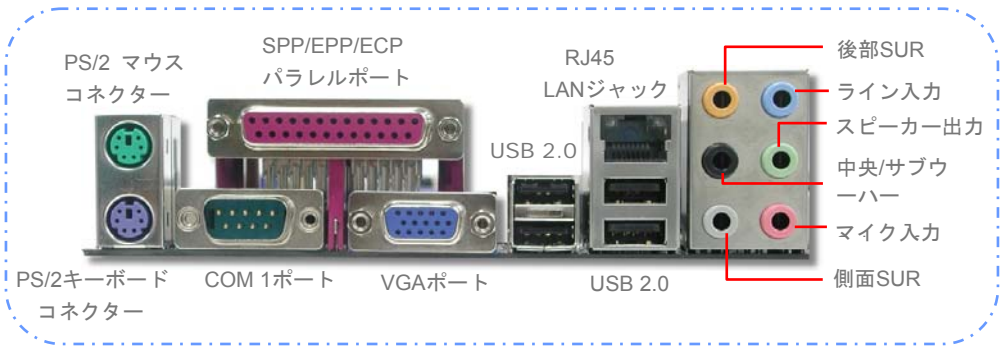
1
S/PDIFコネクタ



S/PDIF モジュール
(別売オプション)

色分けされた後部パネル (i915Gm-PL)

オンボードのI/OデバイスにはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクタ、COM1、VGAポート、プリンター、USB、Azaliaサウンドとゲームポートがあります。以下の写真はケースの後部パネルから撮ったものです。



PS/2 キーボード :

PS/2プラグを使用する標準的なキーボード

PS/2 マウス :

PS/2プラグを使用するPCマウス

パラレルポート :

SPP/ECP/EPPプリンターと接続

COM1 ポート :

接続

ポインティングデバイス、モデム、他のシリアルデバイスと

RJ-45 LAN ポート :

家庭用、事務所用Ethernetと接続

VGA コネクタ :

PCモニターと接続

USB ポート :

USBデバイスとの接続用

側面 SUR :

側面サラウンドスピーカー用

中央/サブウーハー :

中央、サブウーハースピーカー用

後部SUR :

後部スピーカー用

スピーカー出力 :

外部スピーカー、イヤフォン、アンプ用

ライン入力 :

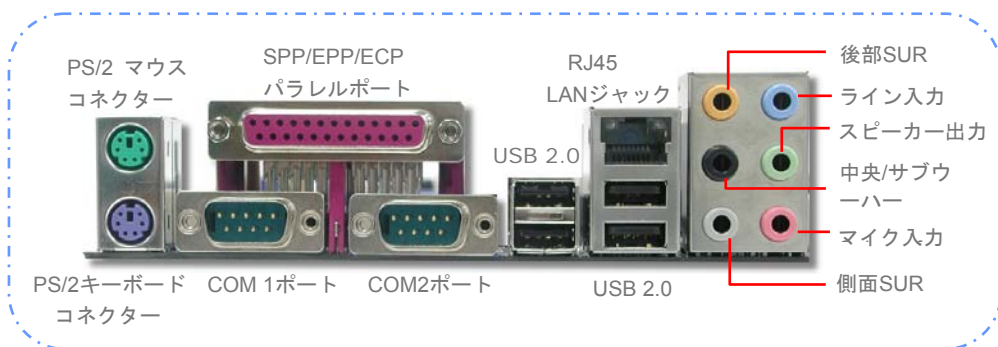
CDやテープなどのシグナルソースから

マイク入力 :

マイク用

色分けされた後部パネル (i915Pm-PL)

オンボードのI/OデバイスにはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクタ、COM1、COM2ポート、プリンター、USB、Azaliaサウンドとゲームポートがあります。以下の写真はケースの後部パネルから撮ったものです。



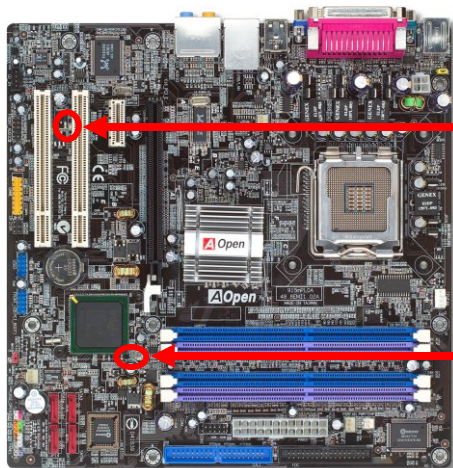
<u>PS/2 キーボード :</u>	PS/2プラグを使用する標準的なキーボード
<u>PS/2 マウス :</u>	PS/2プラグを使用するPCマウス
<u>パラレルポート :</u>	SPP/ECP/EPPプリンターと接続
<u>COM1 / COM2ポート :</u>	ポインティングデバイス、モデム、他のシリアルデバイスと接続
<u>RJ-45 LAN ポート :</u>	家庭用、事務所用Ethernetと接続
<u>USB ポート :</u>	USBデバイスとの接続用
<u>側面 SUR :</u>	側面サラウンドスピーカー用
<u>中央/サブウーハー :</u>	中央、サブウーハースピーカー用
<u>後部SUR :</u>	後部スピーカー用
<u>スピーカー出力 :</u>	外部スピーカー、イヤフォン、アンプ用
<u>ライン入力 :</u>	CDやテープなどのシグナルソースから
<u>マイク入力 :</u>	マイク用

LED表示

LED表示にはブートLEDとスタンバイLEDが含まれており、AOpenは使い勝手のよいシステム情報を提供することを目標に設計しました。

STBY LED (スタンバイLED)は電源がマザーボードに提供されているときに点灯します。システム電源の状態を確認するために便利な表示です。確認できる状態としては、電源のオン・オフ、スタンバイモードやサスペンドからRAMモードの間のRAM電源状態などがあります。

BOOT LED (ブートLED)はシステムがオンの時と、システムがPOST (パワーオン・セルフテスト)の時に点滅します。POSTが全て正常であることを診断しブートが終了した後で、LEDは点灯になります。POSTの間に発生したエラーを警告するときはその後も点滅しています。



STBY LED



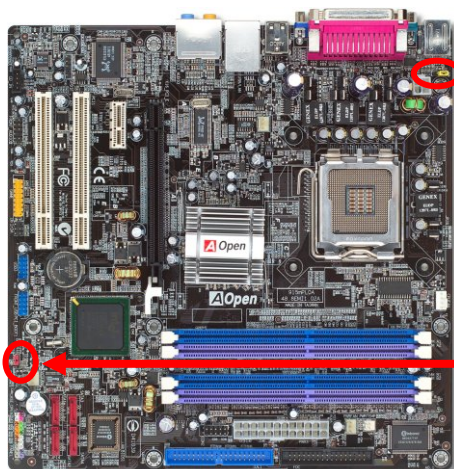
BOOT LED



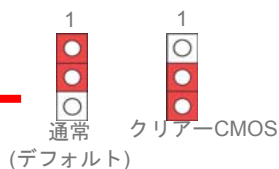
3.4 ジャンパー設定

JP28キーボード /
マウス起動ジャンパー

本マザーボードはPS2キーボード / マウス起動ジャンパー機能を提供しています。



JP28 KB/マウス起動
ジャンパー



JP14 クリア-CMOSジャンパー

JP14 クリアCMOSデータ

システムのデフォルト設定を回復することによってCMOSをクリアできます。CMOSをクリアするために、以下の手順に従ってください。

1. システムの電源を切り、AC電源を抜く。
2. PWR3コネクターからATX電源ケーブルを外す。
3. JP14を確認し、ピン2-3を2、3秒間短絡する。
4. ピンの1と2を短絡することで、JP14を通常の設定に戻す。
5. ATX電源ケーブルを元のPWR3コネクターに接続する。

第4章 特別な機能とユーティリティー

4.1 他の便利な機能

R&Dチームの優れた設計能力により、AOpenは下記のような弊社製品に付属する多様で強力、そして手ごろな機能に自信をしております。そうした機能についてさらに学ばれるよう、私たちのテクニカルウェブサイトを訪問なさってください。

<http://english.aopen.com.tw/tech/techinside>



1MHz Stepping ^{CPU}



Serial ATA



V4 Power Engine



EzWin ^{Flash}



EzInstall



DieHard BIOS ^{Lite}



Dual Channel



Gigabit LAN



Hyper-Threading

第5章 BIOSを設定する


5.1 紹介

システムのパラメーターはBIOS設定メニューに入って調整できます。このメニューではシステムパラメーターを設定したり、128バイトのCMOSエリア（通常はRTCチップかメインチップセットの中）に構成を保存できます。

マザーボードのFlash ROMがインストールされているPhoenix-Award BIOS™は業界標準BIOSのカスタムバージョンです。BIOSはハードディスクドライブ、シリアル、パラレルポートなどの標準的なデバイスのための重要な低層レベルでのサポートを提供しています。

AOpenのR&Dエンジニアリングチームは本マザーボードのほとんどのBIOS設定を最適化しました。しかし、BIOSのデフォルト設定のあるものはチップセットで制御されている部分を微調整できませんでした。そのため、この章では幾つかの設定を調整する手助けをすることを意図しています。

BIOS設定メニューに入るため、画面にPOST（パワーオン・セルフテスト）が表示されるとキーを押してください。

 **重要：** BIOSコードはマザーボード上で最も頻繁に変更される部分なので、このマニュアルに含まれるBIOS情報はお手元のマザーボードに付属するBIOSバージョンとは異なる場合があります。

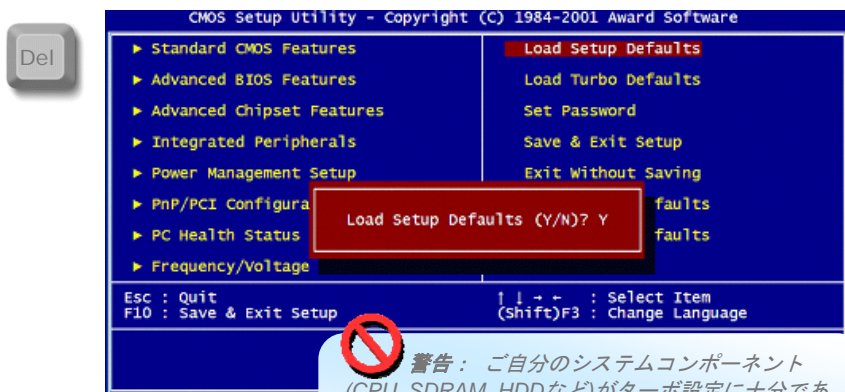
5.2 Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方

一般的に、選択したい項目は矢印キーを使って強調し、選択のためには<Enter>キーを押します。値を変更するには<Page Up>と<Page Down>キーを使います。Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムを終了するには<Esc>キーを押します。以下の表はPhoenix-Award™ BIOS設定プログラムの中でキーボードの使い方の詳細を示しています。

キー	説明
Page Up か +	設定を次の値に変更するか、値を増やす。
Page Down か -	設定を前の値に変更するか、値を減らす。
Enter	項目を選択する。
Esc	メインメニュー： 変更を保存せずに終了。 サブメニュー： 現在のメニューからメインメニューへ戻る。
↑	前の項目を強調する。
↓	次の項目を強調する。
←	バーをメニューの左端に移動させる。
→	バーをメニューの右端に移動させる。
F6	CMOSからセットアップデフォルト設定値をロードする。
F7	CMOSからターボ設定値をロードする。
F10	変更された設定を保存し、セットアッププログラムを終了する。

5.3 BIOS設定への入り方

ジャンパー設定を終え、ケーブルを接続してから、電源を投入しBIOS設定に入ることができます。POST（パワーオン・セルフテスト）の間にキーを押し、推奨最適パフォーマンスのために"Load Setup Defaults"を選択してください。

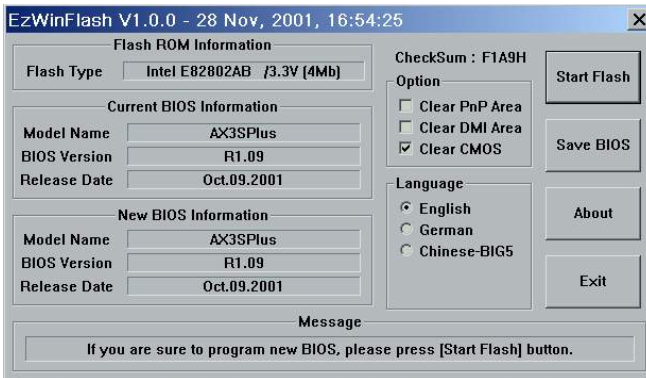


5.4 Windows環境でのBIOSアップグレード



AOpenの優れたR&D能力により、全く新しいBIOSフラッシュウィザード -EzWinFlash- をお届けします。ユーザーの便宜を視野に入れ、EzWinFlashはBIOSバイナリコードとフラッシュモジュールの両方を統合しました。そのためユーザーがすることはウェブからダウンロードしたユーティリティををクリックするだけです。後は自動的にフラッシュのプロセスを完了するのをお手伝いします。EzWinFlashはマザーボードを検知し、BIOSのバージョンを確認し、システムを起こりえる失敗から守ってくれます。さらに、EzWinFlashは皆さんがお使いのどのwindows環境でも機能できるように考慮されていますので、Windows 95/98、98SE/ME、NT4.0/2000、あるいはWindows XPをお使いでもかまいません。

同時に、一層ユーザーが扱いやすい動作環境を提供するため、AOpenのEzWinFlashはBIOS設定の変更をより容易にできるように多言語機能を持つよう設計されています。



注意： システムをアップデートするときにはBIOSフラッシュの失敗というリスクがあります。もしマザーボードが安定して機能しているのであれば、最新のBIOS更新版で修正しなければならないようなバグはありません。その場合はBIOSのアップグレードをされないようお勧めします。アップグレードを計画されているのであれば、起こりうる失敗を回避するために、手元のマザーボードの正確なBIOS更新版を持っていることをお確かめください。

重要： この BIOS の写真にあるモデル名は参照のためだけのものです。お手持ちのマザーボードと同一のモデルではないかもしれません。



以下のステップに従ってEzWinFlashでBIOSアップグレードの手順を完了できます。アップグレードを開始する前に、全てのアプリケーションを閉じておかれるよう強くお勧めします。

最新版のBIOSパッケージのZIPファイルをAOpen公式サイトからダウンロードしてください。(例：<http://english.aopen.com.tw/>)

ダウンロードしたBIOSパッケージ(例：WSGMAXII102.ZIP)をWindows環境の中で、WinZip(<http://www.winzip.com>)を使って解凍してください。

解凍されたファイルをフォルダーに保存してください。例：WSGMAXII102.EXE、WSGMAXII102.BIN

WSGMAXII102.EXEをダブルクリックします。するとEzWinFlashはマザーボードのモデル名とBIOSバージョンを検知します。BIOSが違っていれば、フラッシュのステップを続行することはできません。

メインメニューで言語を選択し、次にBIOSアップグレードの手順を開始するために[Start Flash]をクリックします。

EzWinFlashは全てのプロセスを自動的に完了します。ダイアログボックスが表示され、Windowsを再起動するよう促します。Windowsを再起動するために[YES]をクリックしてください。

BIOS設定画面に入るため、POSTの時点でキーを押します。“Load Setup Defaults”を選択し、次に“Save & Exit Setup”を選択すれば終了です。

フラッシュの過程で電源を切ったり、他のアプリケーションを実行したりしないよう強くお勧めします。



警告：新しいBIOSアップグレードはフラッシュしてしまうと元々のBIOS設定を恒久的に置き換えてしまいます。システムが通常通りに使用する前にBIOS設定を再構成する必要があります。

5.5 Vivid BIOSテクノロジー



皆さんはPOST画面が古臭く、変わり映えしないしないのに辟易されたことはありませんか？それではPOST画面は堅苦しく、温かみがないという従来の考え方をやめてしましましょう。明るくてカラフルなPOST画面を体験するため、AOpenが新しく開発したVividBIOSをお見せしましょう！

初期のグラフィックPOST画面とは違い（全画面を占領し、POSTの間はテキストの情報で覆われていた）、AOpenのVividBIOSはグラフィックスとテキストを別々に扱い、POSTの間に同時に実行させます。この革新的な設計により、VividBIOSはPOST画面で重要な情報を漏らすことなく、皆さんを美しく、優美な256色画面へとお連れします。

加えて、BIOS ROMのスペースが限られていることも別の大きな問題です。従来のBIOSは全てスペースを消費し、圧縮できないBitmapを表示するだけですが、AOpenはBIOSを次世代に向けてかなり調整し、より小さなGIFフォーマットや動的GIFアニメーションを認識できるようにしました。



Vivid BIOSはOpen JukeBox CD Playerとも基本的な技術を共有しています。同じEzSkinユーティリティを使ってVividBIOS画面を変更したり、お好みのOpen JukeBoxスキンをダウンロードすることもできます。この小さなロゴがマザーボードのダウンロードページ <http://english.aopen.com.tw/tech/ezskin/vivid.htm> のモデル名の横に表示されていれば、お手持ちのマザーボードがこの革新的な機能をサポートしていることの保証です！

第6章 ドライバーをインストールする



ドライバーやユーティリティのインストールはインストールウィザードやステップに従って繰り返し行う作業だとお考えかもしれませんが。それでは、EzInstallがどれほど“簡単に”それをやってのけるかに驚かれるかもしれません。ウィザードやステップはなく、皆さんにはただ一回クリックして頂くだけです。クリックしたら終わりです。EzInstallはインストールを簡単にし、誰でも間違えずにできるようにしてくれます！

CDを入れると、AOpenの“ようこそ”ページと支社情報が出てきます。

まず、必要なドライバーのために左側のインストールドライバーのアイコンをクリックしてください。

次に、お好みのユーティリティのために右側のインストールユーティリティのアイコンをクリックしてください。

実質的にはこれだけです。しかしCDの内容をブラウズしたり、もっと情報を入手するためにReadmeを見たり、CDインストレーションを終了したりできます。

クリックしてオンラインマニュアルをインストール

The screenshot shows the AOpen EzInstall menu. On the left, there are five circular icons: a CD, a folder with a person, a magnifying glass, a document, and a CD case. On the right, there is a 'Welcome' message and contact information for various AOpen branches. Callouts point to these elements:

- ドライバー (Drivers) - points to the CD icon
- ユーティリティ (Utilities) - points to the folder with person icon
- CDの内容をブラウズ (Browse CD content) - points to the magnifying glass icon
- Readme - points to the document icon
- Exit CD - points to the CD case icon
- インストールユーティリティ (Install Utilities) - points to the folder with person icon
- インストールドライバー (Install Drivers) - points to the CD icon
- AOpenの支社情報 (AOpen branch information) - points to the contact information table
- クリックしてオンラインマニュアルをインストール (Click to install online manual) - points to the 'Install User manual' link

Contact us	
AOpen Inc. http://www.aopen.com.tw TEL: +886-2-3789-5888 FAX: +886-2-3789-5899	AOpen Computer GmbH. http://www.aopen.com.de TEL: +49-1805-559191 FAX: +49-2102-157799
AOpen America Inc. http://english.aopen.com.tw TEL: +1-510-489-8928 FAX: +1-510-489-1998	AOpen Japan Inc. http://www.aopen.com.jp TEL: +81-048-290-1800 FAX: +81-048-290-1820
AOpen Computer B.V. http://www.aopen.nl TEL: +31-73-645-9516 FAX: +31-73-645-9604	AOpen International Co., Ltd. http://www.aopen.com.cn TEL: +86-21-6225-8622 FAX: +86-21-6225-7926

6.1 ドライバーをインストールする

Install Driver（ドライバーをインストールする）というページから分かるように、EzInstallはマザーボードのために必要なものを拾い上げてくれました。皆さんがすることはただ“GO”をクリックするだけで、その後にステップはありません。リストに挙がっているドライバーの中で、灰色でチェックされているのは必要なドライバーで、皆さんが除外することはできません。インストールしない場合は赤色のチェックを外します。



アイコンを押すと“Install Driver”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。



一度“GO”をクリックするとEzInstallは自動的にインストール手順を実行してから、再起動ダイアログを出します。（ドライバーやユーティリティの中には再起動の部分をスキップするものもあります。）

ご注意: Intelチップセットドライバの制約のため、Windows 2000では、オーディオドライバを正しくインストールするにはService Pack 4にアップグレードする必要があります。

6.2 ユーティリティをインストールする

Installing Utilities（ユーティリティをインストールする）はドライバーのインストールとほとんど同じです。AOpenはシステムを管理するために、たくさんの使いやすくて強力なユーティリティを提供しています。数多くの素晴らしいユーティリティが列挙されていることがお分かりになるでしょう。皆さんにはただ“GO”をクリックして頂けただけで、あとは複雑なステップはなしにシステムにユーティリティがあつという間にインストールされます。



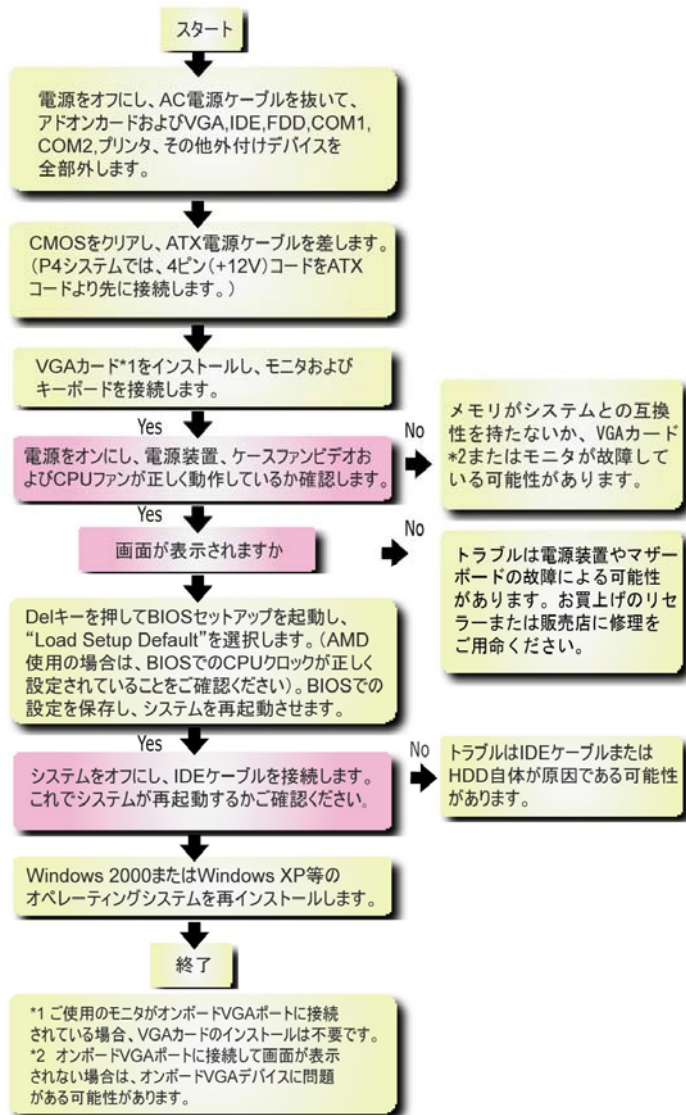
アイコンを押すと選択できるよう“Install Utilities”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。



7章 トラブルシューティング



TroubleShooting



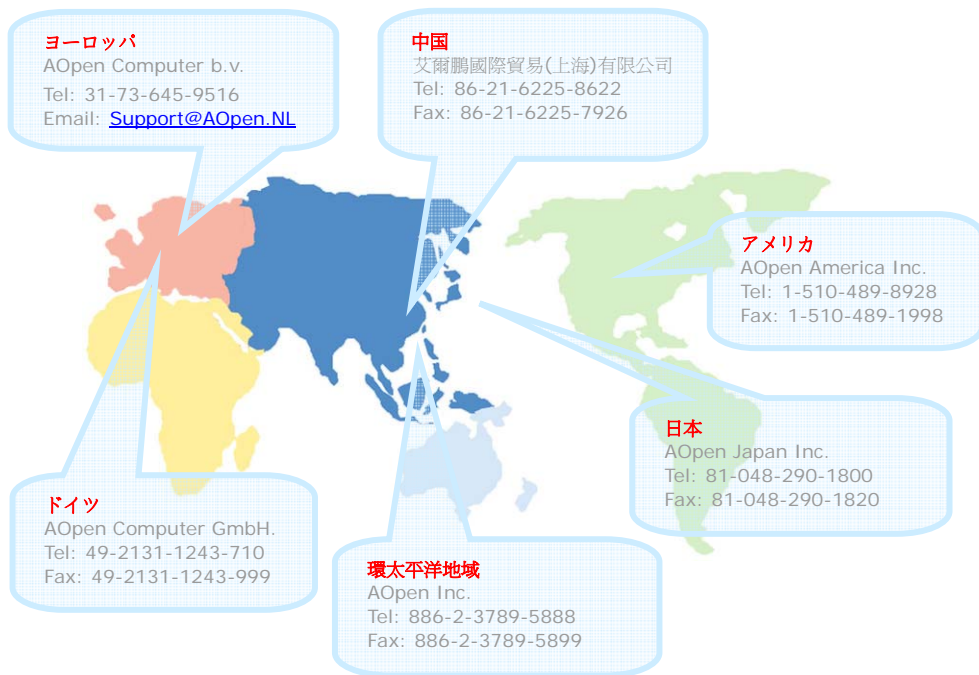
8章 テクニカルサポート

お客様各位

この度はAOpen製品をお選びくださりありがとうございます。今後の良質なサービスを保証するClub AOpenのゴールド会員になるために<http://www.aopen.com>で登録してくださるようお勧めいたします。お客様各位への最良のサービスを維持できるよう、下記の手順に従い、皆様がお買い求めになった地域に従って、各地の支店からサービスをお受けになるようお願い致します。皆様のご協力によって、全てのお客様への効果的で最良のサービスを提供し続けてまいります。

ご理解に厚く感謝致します。

AOpenテクニカルサポートチーム



ヨーロッパ Email :

Support@AOpen.NL

環太平洋地域 :

<http://www.aopen.com.tw/tech/default.htm>

中国 :

<http://www.aopen.com.cn/tech/default.htm>

ドイツ :

<http://www.aopencom.de/tech/default.htm>

アメリカ :

<http://usa.aopen.com/tech/default.htm>

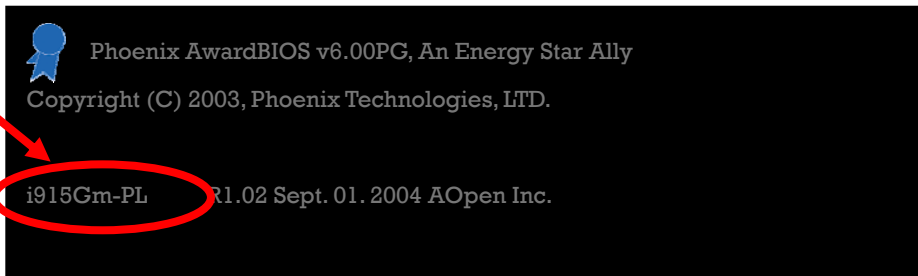
日本 :

<http://aopen.jp/tech/index.html>

モデル名とBIOSバージョン

モデル名とBIOSバージョンはブートの最初の画面(POST画面)の上部左に現れます。

例えば：



i915Gm-PLはマザーボードのモデル名で、R1.02はBIOSバージョンです。

マザーボードを登録する

AOpen製品をお選び下さりありがとうございます。Club AOpenのゴールド会員になるために、本マザーボードを <http://club.aopen.com.tw/productreg/>にてご登録ください。AOpenが高品質のサービスと優先度を保証するものです。スロットマシンゲームに参加して、AOpenから賞を獲得するチャンスもあります。始める前に以下の情報を準備してください：モデル名、部品番号(P/N)、シリアル番号(S/N)、購入日付です。部品番号とシリアル番号はバーコードラベルに印刷されています。このバーコードラベルはパッキングの外部かPCBのコンポーネント側にあります。例えば：



部品番号

シリアル番号

P/N: 91.88110.201は部品番号、S/N: 91949378KN73はシリアル番号です。

Phoenix-Award BIOSエラーメッセージ

エラー音	メッセージ
1回短く (・)	システムのブートが正常
2回短く (・・)	BIOS設定エラー
1回長く - 1回短く (-・)	メモリエラー
1回長く - 2回短く (-・・)	AGPエラー (VGAカードかモニターの接続エラー)
1回長く - 3回短く (-・・・)	VGAカードエラー (オンボードVGA利用時はメモリエラー含む)
長いエラー音が継続 (- - -)	メモリエラー (メモリが正しく装着されていない、正しく認識していない)



Technical Support

オンラインマニュアル：マニュアルをダウンロードするには、まずログインに必要な言語を指定します。“Type”のディレクトリから“Manuals”を選んで、マニュアルデータベースにアクセスします。マニュアルおよびイーजीインストールガイドはAOpenポータブルCDにも収録されています。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

テストレポート：PC組立てには、互換性テストレポートからboard/card/deviceの部分をご覧になることをお勧めします。これで互換性に関するトラブルを解決できるかもしれません。

<http://aopen.jp/tech/report/index.html>

FAQ：ユーザーがよく直面する問題やFAQ(よく尋ねられる質問)が列挙されています。ログインに必要な言語を指定してから問題の解決方法を見えます。

<http://aopen.jp/tech/faq/index.html>

ソフトウェアのダウンロード：ログインに必要な言語を指定した後、“Type”のディレクトリからアップデートされた最新のBIOSまたはユーティリティ、ドライバをダウンロードしてみます。大半の場合、最新のバージョンのドライバやBIOSにより、バグや互換性の問題が解決されます。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

eForum：AOpen eForumは当社製品に関して他のユーザーと討論する場所で、ユーザーの問題が以前に取り上げられたか以後答えを得られる可能性があります。ログインしてから“Multi-language”で必要な言語を指定します。

<http://club.aopen.com.tw/forum/>

当社へのご連絡：ご連絡に先立ち、システム設定の詳細情報およびエラー状況をご確認ください。パーツ番号、シリアル番号、BIOSバージョンも大変参考になります。

販売店、リセラーへのご連絡：当社は製品をリセラーおよびシステム設計会社を通して販売しております。ユーザーのシステム設定に関して熟知しており、お持ちの問題の解決方法または重要な参考情報が提供される可能性があります。